

# 一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159  
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

## 巡拝のよろこび

平成20年と区切りの良い本年は戊子歳となり、戊は「茂」の意味があり、万物が繁茂し盛んになることだという。今年にはオリンピックが開催される年であり、明るい年であってほしいと思うのは万人共通の願いである。今年の正月3が日の主な神社・仏閣への初詣参拝者数は9,818万人と前年を23万人も上回る人出であったと警察庁が発表している。毎年増え続けていることは誠に喜ばしいことである。地元の社寺へお参りされた方々を含めると日本国民のほとんどの人たちが初詣を行った勘定になるだろう。明治神宮など有名な社寺へのお参りは数百万人と大変な数にのぼる。もちろん上位10社には一の宮神社もランクインしている。しかし、本来初詣はその年の恵方の社寺にお参りするという慣わしがあり、その年の最もめでたい方角の社寺にお参りするのが「恵方参り」というのである。大阪では数十年前から節分の日「恵方」に向かって、巻き寿司のまるかじりをすると健康に恵まれるというのが流行っていた。最近では東京や名古屋でも同様に受けられるようになった。



霊峰富士山と富士山本宮浅間大社の大鳥居



富士山本宮浅間大社ご本殿を背に

さて、大晦日から元旦にかけては寒波の影響を受けたが、2日以降は天気がよく暖かかった。これがかえって地球温暖化を意識することになった。「地球温暖化防止京都会議」から10年、肝心のアメリカが参加しなかったがようやく参加することになった。

環境破壊や地球温暖化を強く訴えノーベル平和賞を受賞した、ゴア前アメリカ副大統領の姿が強く印象に残った。

昨年11月に一の宮巡拝会は「中部・関東ブロック交流会」を富士山本宮浅間大社で開催し、三嶋大社(24日)、事任八幡宮、小国神社を巡拝させていただいた。富士山本宮浅間大社の「湧玉の池」で早朝男性会員が禊を行いご本殿に参拝した。帰途、黄金に輝く「暁の満月」を拝し一方には「真紅のご来光」を拝み、大社の鳥居越しには赤く染まった富士山を仰いだ。美しい自然そして滾々と湧き出る清水。

参加者のほとんどが感激をし幸せを味わった瞬間であった。

一の宮巡拝会 代表世話人 関口行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

### 一の宮巡拝会事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159

### 一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内  
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135

## 一の宮巡拝会 会員の広場

広場の頁は会員の皆様と創り上げて行きたいページです。今回は福島県(陸奥国)の一の宮3社を紹介させて頂きました。



石都々古和氣神社山上拝殿



一枚岩から彫りこまれた狛犬



馬場・都々古別神社拝殿



馬場・都々古別神社神域と正面参道



八槻・都々古別神社本殿



八槻・都々古別神社拝殿正面

## 巡 拝 の 声

私の一の宮巡拝も佳境に (奈良県橿原市 坂部征彦)  
猛暑の七月、北陸道では最初の一の宮、若狭彦神社・若狭姫神社を訪れた。高木宮司が私と同じ三河出身の方と聞いていたのでお会いするのが楽しみでした。湖西線の近江今津駅から小浜行きのJRバスに乗ると、沢山の停留所があるものの、50分ほどで若狭姫神社のある小浜の遠敷(おにゅう)バス停に到着。緑滴る山道(昔の鯖街道のひとつ)のドライブは快適でした。

事前連絡で宮司さんは通常遠敷の姫神社(下社)の方におられるとのこと、まずこちらを訪れた。手水舎には冷たい水が溢れている。社務所で宮司さんに挨拶をし、まずは拝殿にて参拝。鶴の瀬(遠敷川)は東大寺の若狭井へのお水送りで有名だが、宮司さんは、開口一番、姫社が清浄で豊富な地下水脈の上に鎮座していることを誇らしげにお話になる。更に、ご家族の来歴から、神社の由来や小浜の歴史、

北朝鮮による拉致の問題にまで話は及ぶ。朱印帳には上下社をまとめて若狭彦神社と達筆で墨書されていた。ご厚情を謝して、次の彦神社(上社)へと向かう。道路脇の用水路には清冽な水が涼しげに流れている。汗だくになりながらも、20分ほど真夏の田園風景を楽しみながら県道を歩くと、山つきにこんもりとした上社の杜(もり)が見えてくる。鳥居の奥は鬱蒼とした森、その中の長い参道を行くと古びた楼門、それを抜けた境内の向こう



若狭彦神社の社殿

に古色蒼然とした社殿があった。神門(拝所)と瑞垣に囲まれて本殿がある。江戸期の改修と聞くと、椋皮葺きの屋根と鈍色の柱や壁が調和して美しい。裏山の社叢の濃緑との対比も見事だ。ご祭神はこの上社では彦火火出見尊というが、聳える千木は水平に切っており鯉木も10本(偶数)と女神に多い例である。そういえば豊玉姫命を祀る下社の本殿は千木のない造りであった。この造作に特に意味はないと思うが、この夫婦神の物語では女性がより重要な役割を果たしていたのかと勝手に想像もしてみた。拝所では夫婦神の名を唱えて、「ご縁があってやって参りました、祓い給え清め給え、、、」と参拝を終える。

小浜のあと旅を続け、兵庫県村岡にいる大学時代のかつての親友と40年振り再会した。全く音信普通で生死も不明であった彼が六月末に突然連絡をくれたのであるが、当時若狭の一の宮参拝を計画していたので、

村岡旅行も容易に決めることができた。これも神縁であったのかとつい考えてしまう。一の宮巡拝は神縁との「ご縁」の結果であり連続であると思っている。地元の大社神社でスタートして丸5年、これまでにやっと78社のご縁があった。残っているのは九州、東北等の遠方ばかりの30数社、私の一の宮巡拝も愈々佳境に入ってきたかといった思いだ。これからも神縁のご縁を頼りに巡拝旅行を続けていくつもりです。

小説「全一の宮」調元祖

# 橘 三喜 (第三十二回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

三喜は、平戸へ帰郷する二十三日間の道中、島上平之進に、毎夕食前の半刻(一時間)ほど、自分が信奉する「古神道」をはじめとして、壱岐一の宮の天手長男神社の由来歴史などを語って聴かせた。

平之進は、神楽に関してはほぼ初歩的知識は身につけていたが、神の道のことは無知にひとしいので、この機会にとまって、

「わからぬことがあったら、何でも遠慮なく質問しなさい」

と、ことはって語っている。

その語る口調は、かつて彼自身が下谷鳥越や浅草寺境内などの路傍に立って、衆人に語りかけたものと同様平易なものだった。

三日目、話しの前に恐縮しながら平之進は質問した。

「先生、大変幼稚で無禮に当るかもしれませんが、教えて戴きたく存じます。」

一体、神様は、どのようなお顔、お姿をなさっておられるのでございましょうか。そして日頃は、どのようなご生活をなさっておられるのでしょうか。——これまで熱心な信者さん数人に伺ったのですが、お一人として納得するご返事をたまわったことがございませんので」

たしかに自分で言うとおりの幼稚で失禮な質問である。だが、三喜は怒りも叱りもしなかった。

幼稚、あるいは素朴など言うべき疑問であり質問であるが、それだけに一般の衆人の極めて当然性の強い疑問であり知りたく思う点であろうと思うからである。三喜は答えた。

「神様は我々人間と同様のお姿、顔立ちをなされておられる。日常のご生活もお変りない」

そう答えて今度は逆に質問した。

「おぬしは、己の眼で見えぬもの以外は、この世に

無きものと思うか。たとえば、吹く風とか、樹々の息吹など」

平之進は小考して答えた。

「風の姿は眼に見えませぬが、五体に感じとりますし、樹々の生きて成長しゆく姿を見ますと当然息吹をしていると理解出来ます」

「神様のご存在とは、それと同様、天然自然のものなのだ。おぬしは神社へ参詣したことがあるな」

「はい。江戸へ出てからは余り機会がございませんが、ご城下に住いました時分は、しばしばお参りさせていただきます」

「その節、どのような氣持になる」

「参拝後、大変さわやかな、清々しい氣持になります」

「おぬしは、参拝の折、ご拝殿の前に正座して、一刻(二時間)以上手を合わせ拝したことがあるか」

「一刻以上!?. ございません。そうしないと神様はお姿を見せてくださらないのでございますか。いえ、そうすれば神様はお姿を見せてくださるのでございますか」

「いや。わしも、随分とそうしたお参詣をしまいたが、いまもする。しかし未だに神様のお姿、直接の

お言葉をたまわったことはない。だがわしは不易に神様のご存在を疑ったことはない。何故なら、そうした参拝をすると、必ず神様がわが五体にお姿、お言葉を感じさせてくださるからである」

こうした会話を繰り返えし、やがて二人はなつかしの肥前平戸へ着いた。寛文十一年(1671・徳川四代家綱將軍)の春二月であった。

平戸に到着すると三喜は、國家老や寺社奉行に顔を出す前に、城下はずれにある亀岡神社へ平之進を供なって参詣した。

この参詣の戻り道、平之進は不意に立止って、「先生、お願いがございます」

と言って、意外な希望を三喜に告げたのだった。

(つづく)



## ● 中部・関東・ブロック合同交流会&巡拝会

**実施期日** 平成十九年十一月二十四日(土)～二十五日(日) 二泊二日  
 東海道新幹線三島駅北口で十二時三十分集合後、バスにて伊豆国一の宮・三嶋大社へ、大川権禰宜さまの案内で正式参拝、社頭のご説明をしていただいた後十三時出発、東名高速沼津インター～西富士自動車道を経由、富士山本宮浅間大社へむかった。  
 全国浅間神社の総本宮、重要文化財・朱塗り二階建ての御本社で正式参拝をした後、参集殿を会場に中部・関東ブロック交流会を開催した。



事任八幡宮・菅田宮司様と共に

開会に先立ち国歌「君が世」斉唱のあと浅間大社宮司渡邊 新先生から「浅間大社のご由緒、富士登山の意義と富士山を世界遺産にと云う気運の盛り上がりなどを」講演頂いた。続いて巡拝会顧問の齋藤盛之先生の「一の宮の神様」と題して神々の特長をわかりやすく講演いただきました。少休憩のあと木曾上松・檜の里、池田木材株式会社専務池田総寿様から神宮「用材」と「神木」御杣始祭の事や木遣りの事などご講演を頂き、木曾の木遣を披露していただいた。講演後、参加者の紹介、会の事務報告及び会行事の報告、巡拝に関する情報交換、交流を図る対話をして交流会を終了。直会・懇親会は宿泊先「かめや」宴会場で行い締めには池田様の木遣りで大いに盛り上がった。翌二十五日早朝五時起床、富士山からの霊水が湧き出る湧玉池にて感動の禊を体験した。丁度開門した本殿を参拝しての帰路、モルゲンルートに輝く富士山を眺望、同時に黄金に輝く残月をも拝し素晴らしい朝の行をつとめる事が出来た。巡拝はまず遠江国一の宮・事任八幡宮へと向かう、菅田宮司様ご夫妻が迎え下さる正式参拝では宮司様が巡拝会のために祝詞を奏上してください感動しました。次に遠江国一の宮・小國神社を正式参拝させていただきます。二日間の充実した巡拝・交流会が、参加者一丸のご協力の下無事終了し浜松駅にて散会した。(塩)

## 新・御朱印帳完成

好評の出雲千年和紙(斐伊川和紙)二万五千円のご朱印帳につき、第三版として四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙を使用して新規に普及版を製作いたしました。出雲和紙同様、軽くて携帯に便利(二五〇g)、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。  
 定価七千円(送料別)



四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙の普及版  
 定価7,000円(送料別)



出雲千年和紙(斐伊川和紙)  
 定価15,000円(送料別)

\*一の宮神社以外の御神印をいただくために、本文全て白紙版、和紙(B5判・軽量の御朱印帳を新規制作いたしました。定価六千円(送料別)



B5判和紙本文全て白紙版  
 定価6,000円(送料別)

ご購入希望者は東京事務局まで

### 朝日旅行

## 諸国一の宮めぐり

—平成二十年度予定—

- 第二十六回 三月二十六日(水)・二十七日(木)  
肥前国(興止日女神社・千栗八幡宮)  
肥後国(阿蘇神社)
- 第二十七回 五月二十日(水)・二十一日(木)  
越後国(居多神社・弥彦神社)  
佐渡国(度津神社)
- 第二十八回 七月十六日(水)・十七日(木)  
志岐国(天手長男神社)または十八日(金)  
対馬国(海神社・和多都美神社)
- 第二十九回 九月十七日(水)・十八日(木)  
陸奥国(都々古別神社馬場社・八槻社・  
石都々古別神社・鹽竈神社)または十  
九日(金) 出羽国(大物忌神社吹浦宮・  
蔵岡宮)

旅行の申込み  
お問い合わせ

電話 〇六六二二二一五三二

受付時間 九時三十分～十七時三十分  
土・日・祝日は休ませて頂きます。

旅行企画・実施 株式会社朝日旅行

〒五三〇一〇〇五 大阪府大阪市北区中之島二丁目三十八番新朝日ビル八階

### 一の宮巡拝会事務局 創房関宮(有)内

〒六六六一〇二二

兵庫県川西市大和東一三三三

電話 〇七二七九一五二五八

FAX 〇七二七九一五二五九

### 一の宮巡拝会東京事務局(株アドワーク内)

〒一一〇〇五五

東京都台東区三筋一十二丁十二

電話 〇三二五八三三三九〇

FAX 〇三二三八六五二二三五

### ● 入会金及び会費について

一般維持会員 年会費 三〇〇〇円

賛助会員 一口三〇〇〇円(何口でも可)

寄付金 お志し

### ● 会費等お振込み先

郵便振替(大阪) 〇〇九九〇一五八二五五